

学校関係者評価報告書

【評価対象期間】 自：2018年4月1日
至：2019年3月31日
【評価基準日】 2019年4月1日

学校法人 麻生塾
麻生医療福祉専門学校福岡校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 5 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生医療福祉専門学校福岡校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	井上 将彦	(医) 聖峰会 マリン病院 (事務次長)
業界関係者	潮田 大介	(有) ケンルック (事務長)
業界関係者	江川 順一	特別養護老人ホーム はなつくし (施設長)
業界関係者	大庭 欣二	(同) 福岡福祉向上委員会 (代表)
業界関係者	桑原 由美子	NPO法人 発達障がい者就労支援 ゆあしっぷ (理事長)
業界関係者	副島 和代	そえじま内科クリニック (事務長)
業界関係者	武田 聡	NPO法人 木もれ日 カフェヒュッテ (施設長)
有識者	占部 尊士	西九州大学短期大学部 (准教授)
有識者	大澤 利通	(公社) 福岡県介護福祉士会 (理事)
有識者	西山 謙	(公社) 福岡県病院協会 診療情報管理研究研修会 (委員長)
高校	熊谷 智彦	久留米学園高等学校 (校長)
地域住民	高田 照幸	(株) たかた商会 (代表取締役)
卒業生	大本 栞	医療秘書科 卒業生

卒業生	田中 隼平	福祉心理学科（心理カウンセラー科） 卒業生
卒業生	中井 志帆	診療情報管理士科 卒業生
卒業生	眞島 顕弥	こども未来学科 卒業生
卒業生	宮井 浩志	社会福祉科 卒業生
保護者	西原 真由美	こども未来学科 保護者

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2019年 6月 29日（土）13:00 ～ 14:00

場 所：麻生塾福岡キャンパス 4号館 5階 453教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者委員の皆さまに、2018年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

2018年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

【評価結果・取組み状況】

- ・カリキュラム会議において「法人の理念」に基づく「学校の教育理念」とアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、および学科ごとに教育目標（育成人材像）とカリキュラムポリシーを策定した。
- ・学生の学修成果として、専門知識知識・技術の習得のみならず、社会人としての素養を身につけるために、実践的な経験値を身につける取り組みを支援した。学生を主体とした「ASO子ども食堂」「子育てサロン」の実施により、学生が社会（地域）とつながる取り組みができた。

- ・実務経験から10年以上経ている教員の業界現場実習を計画し、医療事務と福祉業界での研修を行った。現場でこそ体験できる有益性を肌で感じることができ、学生の実習指導に活かせるヒントを得られた。

【委員からの意見】

- ・特になし

【改善の方策】

- ・教育理念、育成人材像、3つのポリシーに関しては、今後特に非常勤講師への周知徹底を図るため、2019年度は、学生便覧を配布する。
- ・社会人としての素養を身につけるための取り組みは、医療系学科についても今後行っていく。
- ・教員の現場研修については、学生の長期休暇中など可能な時期が制限されるため、計画的に行っていく。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、人材育成像

学校関係者評価結果：適

【評価結果・取組み状況】

- ・法人の理念に基づいた「学校の教育理念」およびアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、また各学科の「教育目標（育成人材像）」を明文化して、学生便覧に記載し周知している。
- ・パンフレットおよびWEB上で公表し、オープンキャンパスにおいて明示している。

【委員からの意見】

- ・学校のポリシーについて、事前を知ることができると、自己点検・評価において教育実践の説明を受けた時に理解しやすい。
- ・可能であれば、パンフレットや学生便覧を会議の場に準備してもらえるとありがたい。
- ・外国人（留学生）向けの多言語表記についてはどうしているか。
- ・今後は周知を図ったうえでの、学校構成員の行動変容等についての評価をお聞きしたい。

【改善の方策】

- ・2019年度入学生に配布する学生便覧を非常勤講師全員へ配布して、教育理念や3ポリシーの周知を図る。
- ・WEBを活用して、保護者・関連業界へも周知を図る。
- ・次年度の委員会においては、事前の準備を整える。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取り組み状況】

- ・運営方針については年度毎に策定し、運営会議、経営会議の承認を得たのち、年度初めにキックオフミーティングにおいて教職員への周知をしたうえで、各月の定例会議において、確認・改善に取り組んでいる。
- ・学生情報や教職員の勤怠に関しても情報システム化に取り組み、学校運営上必要な情報を一元管理している。
- ・学内事務職員の研修については、進んでいない。

【委員からの意見】

- ・窓口である事務職員の対応は大切なので、教育・研修に力を入れていただきたい。
- ・働き方改革の実施に向けた取り組みをしながらの業務の遂行は、時間的にも労力的にも苦勞があると思う（特に残業管理面）。

【改善の方策】

- ・学内事務職員の資質・意欲向上に向けては、管理職によるヒアリングを行い、必要な研修を検討する。
- ・組織的かつ効率的な運営を行っていくために、各系・各学科における運営体制の見直しを行う。管理職によるサポート体制を構築して、系・学科会議の開催などで情報共有の機会を増やしていく。

【評価結果・取り組み状況】

- ・教育課程編成にあたっては、業界の人材ニーズを反映したものとするため、教育課程編成委員会での意見を参考にして、各学科の教育目標（育成人材像）を見直している。
- ・教育課程の編成については、可視化できる体系図（カリキュラムマップ等）が未策定であるため、科目間の連動性に関する理解が乏しい状況となっている。
- ・シラバス、コマンシラバスの作成および授業報告書の記載については、教員によって内容に差があるため、改善が必要。
- ・教育の評価に関しては、年に2回「授業アンケート」を行い、常勤教員に関しては各自にフィードバックを実施して、個別の指導・サポートをしているが、非常勤講師に対しては必要時のみ行っている。
- ・教育体制の整備については、校務分掌を定めて学校・学科を超えた連携および協働体制を整えているが、学内に関しては業務負担に差があるなど、効率的でない面もある。
- ・教員の研修については、本年度学外において3名の現場研修を実施し、専門性や指導力の維持・向上を目指した。

【委員からの意見】

- ・教育課程を可視化するための体系図は、イメージしやすいものが良いので、図表化が必要。
- ・シラバスや授業報告書に関しては、担当教員と担任または他者を含めたダブルチェックが必要。また、非常勤講師に関してのフィードバックも必要ではないか。
- ・授業評価については、外部からの評価もあると良い。
- ・留学生の海外での就職も踏まえて、成績評価を多言語で準備する必要も出てくる。
- ・教職員の研修に関しては、総数30名に対する3名では、足りないと思う。また、キャリアパスの観点からも計画的に実施されるのが望ましい。
- ・保育業界は急速に変化しているため、教員も現場を感じる必要がある。

【改善の方策】

- ・シラバスに関しては「ガイドライン」を提示して、チェックする機能をしくみとして整える。
- ・教育課程の体系図については、8月定例のカリキュラム研修において周知を図り、学科ごとに12月完成を目指す。
- ・授業アンケートの結果と外部評価者のフィードバックをもとに、改善の計画・実施を図る。
- ・教職員の外部研修に関しては、業務の調整もしながら計画立てて行う。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・学修成果については、学科ごとに育成人材像に沿った目標を設定して教育活動を展開し、全教職員で共有しながら、進捗状況については、毎月のクラス運営報告書や教務会議・系会議等で共有し、改善の必要性について検討している。
- ・退学者数については、責任者会議・学科会議等での情報共有化を図り、学生相談室の活用や早めの対応を心がけたことで低減につながった。

【委員からの意見】

- ・退学理由別に対策をしているか。
- ・長期履修制度の導入は考えているか。
- ・高校時代からの関わり、入学後、卒業後の教育プランはあるか。
- ・退職者のフォロー体制はあるのか。
- ・卒業生が学校を訪問することがよくあるのか。

【改善の方策】

- ・医療系の資格検定試験の精査を、教育課程編成委員会や現場訪問時を通じていただく意見をもとに、8月のカリキュラム会議に向けて行う。
- ・資格取得のための取組み事例を、8月までの教務会議で共有する。
- ・多様性のある学生、配慮が必要な学生に関する「事例検討会議」を各系・各学科で定例化する。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組み状況】

- ・学生に対する修学支援、生活支援、進路支援、健康管理については、担任をはじめキャリア支援本部、キャンパスライフサポートセンターとも適時連携しながら行っている。

- ・配慮が必要と考えられる学生に関しては、課題について各学科・各系内での情報共有を図りながら、適切な配慮の方法を検討している。
- ・経済的側面に対する支援については、学生支援グループと連携しながら、保護者も交えて電話や面談を行いながら、随時進めている。
- ・卒業生、社会人への支援体制は、同窓会組織や国家試験対策講座等を活用して行っているが、医療系に関しての支援が不十分である。

【委員からの意見】

- ・学生にとって、この学校での生活は楽しく充実しているのかを知りたい。
- ・DV（ドメスティックバイオレンス）やハラスメント対策も必要である。
- ・学生に対するカウンセリングについては、教員個々では限界があるため、フローチャート等に沿って対応するしくみや、教員用事例集等を作成し、質の向上が望まれる。
- ・卒業後の支援プログラムとして、一生涯に渡ってフォローしてくれるような、ノンストップサービスとしてのキャリア支援を構築して欲しい。

【改善の方策】

- ・多様性のある学生を支援していくために、教員個々のカウンセリングスキルを向上させるために、スキルアップ講座の受講を勧める。
- ・医療系学科の卒業生に対する支援については、実習巡回や就職担当者の現場訪問の際に、支援の可否および内容についてヒアリングを行い、方法や手段を検討する。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・教育環境としての施設・設備に関しては、全教室にWi-Fi環境を整備した。
- ・施設・設備の維持・管理、安全・衛生については、事業戦略グループと連携して計画的に実施している。
- ・福岡キャンパス内にある総合図書館では、調べ学習や卒業研究に際して活用すべく、年次で予算に応じた蔵書の刷新を進めている。
- ・火災の際の避難訓練については、時期を検討しながら計画的に実施している。防災・防犯に関してはマニュアルに沿った指導を行っている。

【委員からの意見】

- ・授業資料がスマートフォンで見られて、授業のまとめが毎時間確認できるミニテストや質問が配信されるなど、予習・復習がしやすいような教育システム、環境整備が望まれる。
- ・書籍に関しては、教科書も含めて電子書籍の導入について検討しているか。
- ・防災については、地震、台風等それぞれの状況にあった対応が必要である。

【改善の方策】

- ・避難訓練の実施時期については、早期化できるように引き続き検討していく。
- ・防犯についての指導は、警察署の生活安全課や消費生活センターによる講演やDVDを活用する。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・学生の募集については、受け入れ方針に基づき公正かつ適切に行っている。
- ・選考基準を定め、適正に入学選抜を行っている。

【委員からの意見】

- ・障がいのある学生の受け入れや、資格を取得したい人とそうでない人の対応（社会人・高齢者の学びなおし等）など、多様性が求められてくる。
- ・高校生以外の対象者への取組みはないのか。

【改善の方策】

- ・現状を維持しながら、今後求められる教育について検討を進める。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・予算計画については、校長代行によって計画が立てられ、理事局および法人本部にて協議され決定する。
- ・財務情報はWEB上で適切に公開している。

【委員からの意見】

特になし。

【改善の方策】

- ・今後も安定的な財政基盤を確保するためには、想定外の退学者発生が及ぼす影響を防ぐ目的においても、学生の学修意欲や目的意識を維持・向上させる方策を検討する。

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・学校教育法および専修学校設置基準等、関係法令や学内規程を遵守して学校運営を行っている。
- ・教員のみならず職員に対しても、定例会議等で周知を図り、学内研修において遵守の必要性を周知しているが、更新研修の必要について検討をしていく。

【委員からの意見】

- ・非常勤講師への対策はしているか。
- ・FD（ファカルティディベロップメント）、SD（スタッフディベロップメント）、コンプライアンス研修への出席状況はどのようになっているか。

【改善の方策】

- ・教職員の研修については、年度当初において時期や内容を確認して、計画的な受講を進めていく。

基準 10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・自己点検・評価を年度ごとに行い、学校関係者評価の結果とともに公表している。
- ・課題解決については定例会議において教職員で周知して共有化を図ったが、課題解決については、学科ごとの情報共有や解決に留まり、学科を超えての共有ができていないため、成功事例が横展開されていない。

【委員からの意見】

- ・成功事例をもたらした教員をスーパーバイザーとして、スーパービジョン制に取り組むなどしてはどうか。
- ・本校らしさや本校しかできないものなど、独自性に勝っているもの、ここでしか学べないものなど世界に発信できるものとして素晴らしいものは何か、明確なビジョンが必要と考える。

【改善の方策】

- ・課題解決に関する計画を共有したのち、定例教務会議において、2か月ごとに解決の進捗状況を共有する。

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・社会福祉科による「ASOこども食堂」、こども未来学科による「子育てサロン」の開催によって、社会貢献・地域貢献につながっている。

- ・社会福祉施設からのボランティア依頼に関しては、学内掲示と案内、担当教員による取りまとめ等を行って、学生のボランティア参加を啓発している。

【委員からの意見】

- ・現在行っている活動を今後も継続して行ってほしい。
- ・「生涯学習講座」についても、まずひとつずつ実行してみて、対策を練って行ってはどうか。（例えば地域の人達と学生教育のコラボレーションなど）
- ・麻生教育サービスのカルチャースクールを、学生と地域の交流の場として開催してはどうか。
- ・麻生の学校が地域を守り、地域が麻生の学校を守る。といった視点で防犯・防災をともに担っていく。
- ・「ASOこども食堂」へは、社会福祉科以外の学生の参加・拡大が必要ではないか。
- ・社会福祉科、こども未来学科以外の学科も、社会貢献・地域貢献の機会が必要ではないか。

【改善の方策】

- ・公開講座の需要がどの程度あるのか、時期や内容とともに受講者募集の方法など、検討すべき内容を引き続き勘案する。
- ・高齢者対象の地域イベントへの学生の参画など、機会を増やしていく。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適

【評価結果・取組状況】

- ・留学生の受け入れ、在籍管理については学生支援グループと連携し、学内にも在留資格に関する相談業務を担当する教員を配置している。
- ・海外留学プログラムについては、グローバル推進委員より在校生への案内を行い、学科の修学ルートに沿った相談・支援を行っている。

【委員からの意見】

- ・海外、国内の協力校を作り、教員や学生の交流を図る。
- ・受け入れるだけでなく、海外で学ぶ機会を提供していく。

【改善の方策】

- ・留学生の指導ノウハウを蓄積し、四半世紀ごとにクラスの情報を振り返る機会を設ける。
- ・必要に応じて、定例教務会議においても教職員間での情報共有を図る。

以上